

この本知ってる？ 中・高生版 R5

ここに紹介した本は、図書館にあります。読みたい本がみつかったら、中央図書館2階ヤングアダルトコーナー、依知北・睦合北・小鮎・荻野・森の里・玉川・相川・睦合西・南毛利の公民館図書室に来てください。

本は、ひとり10冊、2週間借りられます。読みたい本が貸出中のときは、インターネットや電話、窓口で予約してください。上記以外の公民館の事務室で予約図書を受け取ることもできます。

家の近くの公民館をぜひ利用してね！

◆読んでみよう◆



『境界のポラリス』 中島 空／著 講談社

自分が中国人であるということを、友達に隠している高校1年生の恵子。今は、日本語を話し、日本人として暮らしているけれど、ときどき自分は「中国人」といえるのだろうかと思う。

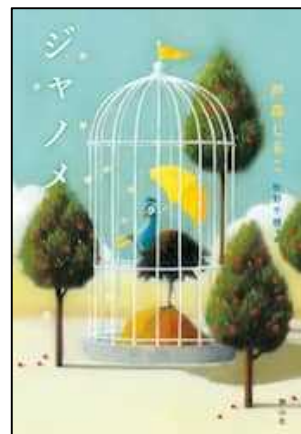
でも、本当のことを知ったら、友達は自分のことを「中国人」とみなすだろうと、不安になって。自分はいったい何者なんだろう？と、悩む恵子の答えは。

『ジャノメ』 戸森 しるこ／作 牧野 千穂／絵 静山社

山の上動物園のメスのインドクジャクは、「ひきこもりのピーコ」と呼ばれている。しかし、彼女には昔、言葉がわかる人間の男の子がつけてくれた「ジャノメ」という名前がある。

現在の「ピーコ」の話と、シンジと出会い、会えなくなるまでの「ジャノメ」の話が交互に進み、物語が紡がれていく。飼育員さんたちや鳥仲間、それぞれのキャラクターも魅力的。

せつなくてあたたかい、何度も読み返したくなる物語。



『マスクと黒板』 濱野 京子／作 講談社

コロナが流行し始めた年、長い休校が終わって、学校が再開された。全員がマスクをしている。目立つことが苦手な、中学二年の立花輝にとっては好都合だ。学校再開の日、だれかが描いた黒板アートが話題に、なっていた。美術部の輝は、その見事さに釘付けになった。黒板アートは、その後も描かれた。文化祭も運動会も中止になるなかで、輝は、黒板アートが気になっていた。

『プーさんの戦争 世界一有名なクマのお話』

リンジー・マティック／文 ジョシュ・グリーンハット／文

ソフィー・ブラッコール／絵 山口 文生／訳 評論社

くまのプーさんのモデルになったクマのお話。ウィニーはカナダで誕生。売られていたところを戦地に向かう獣医部隊の兵ハリーに助けられ、部隊と一緒に大西洋を渡り、イギリスへ。部隊ではマスコットの存在でしたが、ハリーの決断で、動物園に。そこでは、運命の出会いが待っていました。



『あっちもこっちもこの世はもれなく』

いとう みく／作 ころりよ／絵 PHP研究所

ぼくは背が低い。朝の日課は、二杯の牛乳を飲んで、ぶらさがり健康器に、ぶらさがることだ。給食の牛乳も仲良しの希来里きらりに頼まれて、代わりに飲んでいる。希来里は努力をしていないのに、背が高くて嫉妬してしまう。この世は不公平だらけだ。



『春のウサギ』 ケヴィン・ヘクス／作 原田 勝／訳

大澤 聡子／訳 小学館

二歳でお母さんを亡くしたアミーリアは、大学教授のお父さんと、向かいに住むお世話役のオブライエンさんと過ごしている。春休みに旅行に連れて行ってもらえなかったアミーリアは、よく行く陶芸工房とうげいこうぼうでケアリーと出会い「お母さんから、なにか知らせを受けとったことある？」と不思議なことを聞かれる。



『午前3時に電話して』

小手鞠 るい／著 大庭 賢哉／画 講談社

小六の三学期の授業が終わってすぐ、卒業式を待たずに引っ越した。連絡先も教えられずに、みなみは3人の友達と別れた。陸上クラブもやめてしまった。毎晩、自分の悲鳴で目が覚める。だれかに話したい、だれかに聞いてもらいたい。

ゆうだい はるき あいり
雄大、晴樹、愛理、友達3人のみなみちゃん救出作戦がはじまる。



『私のスポットライト』 林 真理子／著 ポプラ社

顔も成績もごくごく普通な「地味」な中二の彩希さき。文化祭の劇で、なぜか主演になり、演技の面白さに目覚め劇団に通うことになった。

ところが、クラスの女子たちにLINEでひどい悪口を言われ、傷ついた彩希さきは劇団の練習を休んでしまう。そんな彩希に父親が声をかける。

「頑張ることを馬鹿にする奴らを、彩希は笑ってやれ」



◆調べてみよう・考えてみよう◆

『図解でわかる 14歳からのLGBTQ+』

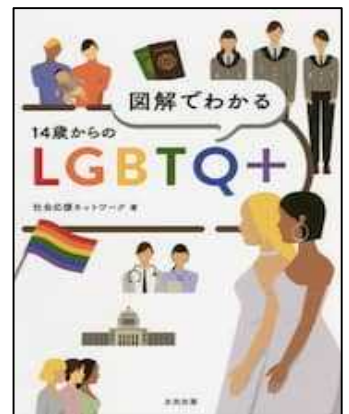
社会応援ネットワーク/著 太田出版

最近、LGBT（エルジービーティー）ってよく聞くけれど、Q（キュー）や +（プラス）って何のこと？

なぜ、「LGBTQ+」について知ることが大切なの？

なんとなくわかっているようで、わかっていなかったことが、この本にはわかりやすく紹介してあります。

まずは、「LGBTQ+」を正しく知ることから始めてみよう！



『ライトニング・メアリ 竜を発掘した少女』

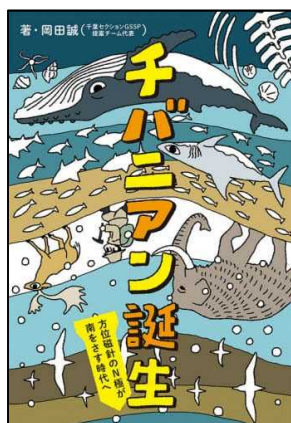
アンシア・シモンズ/作 布施 由紀子/訳 カシワイ/絵 岩波書店

赤ちゃんのころ、^{かみなり}雷に打たれて生きのびた「ライトニング（稲妻）メアリ」ことメアリ・アニング。貧しい階級は学校へ行けず、女性は大学で学んだり学会に入ったりできなかった時代。独学で知識を得て、観察と記録と研究を続け、世間に認められなくとも、世界の見方を変えたメアリ。社会の枠に収まらない、^{わく}気難しくて強気な科学者の少女時代。

『ニッポンの総理大臣』ニッポンの総理大臣編集部/編

Gakken

「総理大臣が就任してから内閣をつくり総辞職するまでの一代」を1ページごとに紹介。初代伊藤博文から101代岸田内閣まで、総理大臣になった経緯や就任中に起こった重要な出来事が、コンパクトにまとめてあります。映画出演した総理、モテモテ困った総理などユーモラスなエピソードに思わず笑ってしまうかも。



『チバニアン誕生 方位磁針のN極が南をさす時代へ』

岡田 誠/著 ポプラ社

46億年の地球の歴史は、いくつもの時代で区切られている。「チバニアン」は、77万4000年前から12万9000年前までを指す言葉だ。千葉県市原市の川治いの地層に、この時代が刻まれていた。そこには、地球のN極とS極が逆転していたことがわかる痕跡が残っていた。

チバニアンは、どのように国際会議で認められたのだろう。

『古典がおいしい！平安時代のスイーツ』

前川 佳代／著 穴戸 香美／著 かもがわ出版

平安時代の貴族の日記や文学作品には甘いお菓子がでてきます。

『枕草子』に出てくる「けずり氷」は、削った氷にツタの樹液を煮詰めた甘いシロップの「あまづらせん」をかけて食べていました。

現在の材料で作れる古典スイーツが10種類紹介されています。

古典もスイーツも見て食べて楽しんでください。



『よみがえれ、マンモス！近畿大学マンモス復活プロジェクト』

令丈 ヒロ子／文 深川 直美／絵 講談社

シベリアの数万年も凍っている土からマンモスのユカが発掘されました。細胞核が生きていたら、ゾウのおなかを借りてマンモスの赤ちゃんを産んでもらう。現代にマンモスを蘇らせようとする研究者たちの挑戦「マンモス復活プロジェクト」スタートです。

『しんどい時の自分の守り方 10代から知っておきたいメンタルケア』

増田 史／著 ナツメ社

しんどさを手放して、ラクに生きるスキルを手に入れよう！

「しんどい」の理由を知って、原因から自由になる、しんどさを手放してラクに生きるスキル、SOSを出すスキルを身につけよう。

長い文章を読みたくない人は、まず、マーカー部分と「まとめ」だけでも見てみよう。気になるところがあったらじっくり読んでみてね。



『放課後の文章教室』 小手鞠 るい／著 偕成社

「嫌なメールにどう対抗したらいいの？」「言いたいことをすっきり書ける方法は？」「何か文章を書きたいけれど、まず何から始めたらいいの？」文章を書くのが、好きでも嫌いでも、得意でも苦手でも、一生ついてまわる「書く」ということ。児童文学や恋愛小説など多くの作品を紡いできた著者が、若い読者からの質問に誠実に答えています。

小説を書いてみたい人への具体的なアドバイスも必見です。

*中央図書館 2階 ヤングアダルトコーナーのご案内

2階の開館時間 午前9時から午後7時まで

お休みの日 施設保守日

年末年始 本の整理のとき ほか



問い合わせ 厚木市立中央図書館 〒243-0018 厚木市中町 1-1-3 ☎ (046) 223-0033